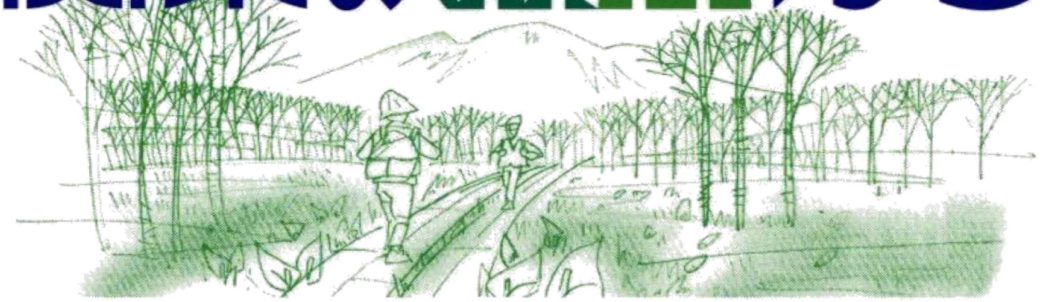
令和２年１２月１日

第１９８号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/

「初冬の吾妻小富士」
福島森林管理署

◎　希少野生生物の保護と森林施業等との調整について　計画課・・２

◎　一般競争（指名競争）資格の定期審査のお知らせ　経理課・・３

◎　地域全体での生産性向上の取組　資源活用課・・４

◎　森づくり最前線
上越森林管理署　松之山治山事業所　治山技術官　矢沢俊悟・・５

◎　赤谷の森から　赤谷森林ふれあい推進センター・・６

◎　小学生が職場見学に来てくれました！　総務課・・８

希少野生生物の保護と森林施業等との調整について

計画課

近年、森林の管理経営に関し、自然環境への影響に十分配慮した森林施業、治山事業、路網整備が求められており、とりわけ、絶滅危惧種など希少野生生物の生息・生育環境の保全に配慮することが生物多様性確保の観点から重要になっています。

このため、関東森林管理局では、外部の専門家からなる「希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会」（以下、希少種委員会）を設置し、貴重な野生動植物の生息・生育地周辺における施業等に関し、必要に応じて現地調査を実施し、専門家からの意見を伺い、科学的根拠に基づき、貴重な野生動植物の保護に配慮した事業実行に努めています。

今年９月に開催した第１回希少種委員会では、クマタカ、イヌワシ、サクラソウの生息・生育地周辺における森林施業等について専門家のご意見をお伺いしました。各希少野生生物種の概要及び委員会に諮られた内容は下記のとおりです。

【クマタカ】（写真①～③）

羽を広げた時の大きさは約1.5mとなる山地の森林生態系の頂点に位置する大型の猛禽類です。1993年に、種の保存法（1992）により「国内希少野生動植物種」に指定され、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧IB類（EN）とされています。

間伐等の森林施業や路網整備が必要な箇所から500m以内に営巣木があるため、クマタカの繁殖に配慮した作業時期を検討した結果、委員会開催時点での繁殖状況から当初の計画通り森林施業等を行ってもクマタカの繁殖に問題はないとの判断がなされました。なお、次回の営巣木となる冬期において見込まれる森林施業等の予定についてもあらかじめ委員会に諮ることで、クマタカの繁殖に配慮した森林施業等を目指すこととしました。

【写真①】約40日齢の雛

【写真②】オス成鳥

【写真③】メス成鳥

【イヌワシ】

羽を広げた時の大きさは約2mとなるクマタカ同様森林性の鳥類で、山地の森林生態系の頂点に位置する大型の猛禽類です。1993年に種の保存法（1992）により「国内希少野生動植物種」に指定され、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧IB類（EN）とされています。

営巣地と推定される場所から約2ｋｍ離れた地点に治山工事が必要な箇所があるため、イヌワシの繁殖に配慮した作業時期について検討した結果、クマタカ同様に当初の計画通り森林施業等を行ってもイヌワシの繁殖に問題はないとの判断がなされました。なおクマタカ・イヌワシ共に今後の事業実行に際しては、専門家の意見を踏まえ対応するとともに、繁殖に影響のない作業期間を調整した上で実行していくほか、継続的なモニタリングも行いながら、繁殖状態等の確認を実施し、繁殖に影響のない作業期間を検討・調整した上で治山事業等を進める予定です。

【サクラソウ】（写真④）

直径2～3cmほどの白～淡紅色花をつける多年草の植物です。環境省のレッドデータブックでは準絶滅危惧に分類され、都道府県のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に分類されます。

関東森林管理局では人工林等に生育するサクラソウに関して平成19年度より調査プロットを設定し、継続的な調査を実施しています。今年度は生育地付近の森林施業等の予定はありませんが、サクラソウの自生の維持を確認することを主な目的とし、今年度の調査結果について委員会に諮ったところ、イノシシの掘り返しと思われる痕跡が多くみられることから、イノシシの嗜好性について調べ、今後の保護等に役立てていく予定となりました。引き続き調査結果のデータを分析し、今後のサクラソウ群落の維持に役立つような考察及びとりまとめを行う予定です。

【写真④】サクラソウ調査の様子

以上のように関東森林管理局では希少種委員会を通じて、自然環境への影響に十分配慮した森林施業、治山事業、路網整備を目指しております。

今年度は新型コロナウィルス感染症の影響に鑑み、オンラインでの開催方法を取り入れ（写真⑤）、通常とは異なる開催方法となりましたが、希少種委員会に関係する皆様のご協力のおかげで無事開催することができました。

【写真⑤】希少種委員会の様子

今後とも森林施業、希少種の生息状況はもちろん、新型コロナウィルス感染症等社会情勢についても最新の状況を考慮しながら委員会の運営に努めるとともに、林野庁で作成した「生物多様性保全に配慮した森林施業の手引き」等も活用し、局及び森林管理署等が連携しながら、希少野生生物の保護と森林施業等との適切な調整を目指していきます。

一般競争（指名競争）資格の定期審査のお知らせ

経理課

令和３・４年度において林野庁が発注する建設工事及び測量・建設コンサルタント等の一般競争（指名競争）に参加するために必要な資格の申請受付が始まりました。

申請手続の詳細は、関東森林管理局ホームページをご確認ください。
（http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/apply/publicsale/keiri/121101_2.html）

※ インターネット受付（12／1～1／15）、郵送受付（1／18～1／29 ）

【地域全体での生産性向上の取組】

資源活用課

我が国の森林資源が本格的な利用期を迎えている中、「伐って、使って、植える」というサイクルで安定的な林業経営を行うには、木材生産の生産性を向上させること等により、林業経営の効率化を図ることが重要な課題となっています。

また、令和元年度から各都道府県において公募・公表を開始した「意欲と能力のある林業経営者」の認定基準の一つとして、「素材生産において生産量の増加又は生産性を一定の割合以上で向上させる目標を有していること」等が定められており、意欲と能力のある林業経営者の育成の観点からも、地域全体で生産性の向上に取り組んでいく必要があります。

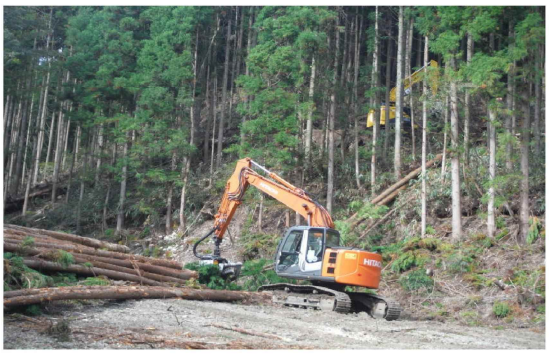
このような状況を踏まえ、関東森林管理局においては、平成28年度から森林管理署等が発注する素材生産請負事業における生産性向上に取り組んでいます。

主な取組として、「作業日報の作成・分析による工程管理」が挙げられます。これは、請負事業の事業地毎に作業日報を作成し、各工程毎の生産性を把握するとともに、ボトルネックがどこにあるかを明らかにし、この結果に基づき作業システムを改善することで生産性向上につなげていく取組です。

もう一つ大きな取組として、「現地検討会の開催」があります。現地検討会では、請負事業の中間時点等において、地域の林業関係者（林業事業体、森林組合、県、市町村、研究機関等）の参加を得て、工程分析により洗い出されたボトルネックの改善策の検討や、生産現場での創意工夫等について意見交換・情報共有を行い、地域全体での生産性向上に向けた意識の醸成や取組手法の普及・定着を図ります。今年度は、会津署、磐城署、日光署で開催（11月末現在）されています。

生産性向上の取組を通じて林業事業体等の利益や事業量が拡大することにより、山村地域における就業機会が創出され、地域林業の活性化にもつながるものと期待されることから、今後ともこれらの取組を継続してまいります。

【生産性向上現地検討会】（磐城署）



【検討会における高性能林業機械によるデモンストレーション】（磐城署）

今月の表紙

初冬の吾妻小富士（福島森林管理署）

吾妻小富士（あづまこふじ）は、福島県福島市にある標高1,707mの山です。福島県から山形県の県境に沿って東西に伸びる吾妻連峰のひとつになります。すり鉢状の大きな火口があり、麓の福島市側から見るとその形状が小型の富士山のように見えることからこの名が付いたと言われています。
市街地から遠望すると残雪が「雪うさぎ」に見えることからも親しまれています。

森づくり最前線

上越森林管理署　松之山治山事業所
治山技術官　矢沢　俊悟

私の勤務する松之山治山事業所は、新潟県南西部の上越市安塚区に位置し、上越市に隣接する十日町市松之山地区の民有林内の地すべり防止区域約540ヘクタールを対象に国直轄の地すべり防止工事を行っています。

この地域はスギ人工林のほか、ブナやミズナラなどが生育する天然林が多く、対象地の9割近くが森林で構成されています。特に「美人林」と呼ばれるブナ林が有名で、毎年四季折々多くの人々が訪れる観光スポットです。

美人林

また、非常に雪が多く、過去には積雪４メートルを超えるほどの豪雪地帯でもあります。冬季にはスキーなどのウィンタースポーツが盛んに行われており、毎年多くのスキー客で賑わいます。加えてこの豪雪がもたらすきれいで豊富な雪解け水は棚田の稲作に利用され、コシヒカリに代表される新潟県のおいしいお米を育てる貴重な水源になっています。しかし、何といっても一番のおすすめは温泉でしょう。松之山温泉は日本三大薬湯の一つに数えられ、多くのファンを持つ名湯です。温度は熱めですが、塩化物主体のアルカリ性のお湯で効能としては切り傷、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症等があげられます。私も現場仕事で汗だくになるたびに「このまま温泉に浸かってから帰りたいなぁ」という誘惑にかられながら帰所しているところです。

棚田

さて、話を業務に戻しますと、この松之山地区では過去に頻発した地すべりによって多くの人々の田畑や道路、さらには民家等が失われました。特に1962年（昭和37年）に発生した地すべりでは多大な被害をもたらし、あまりの被害の大きさから、一部では「明日のない町」とまで称されました。当署では新潟県からの要請を受け、民有地において国直轄で地すべり防止工事を実行する「民有林直轄地すべり防止事業」を1964年（昭和39年）に着手し、地すべりの発生の防止に努めています。

地面ごと傾いた農協倉庫
（昭和38年撮影）

松之山地区の地すべり発生のメカニズムは地下水位の上昇によって地すべりが助長されていることから、地すべり発生防止のためには、地下水排除工を主体として谷止工や土留工、必要に応じてアンカー工や杭打工などを組み合わせて施工します。地下水排除工は、集水井内や地上から集水ボーリングを放射状に削孔し、集めた地下水を地すべり地外に排水する工法です。また、施工した工事の効果を検証するため、地下水位や歪みの測定調査を並行しながら実施し、目標とする安定度を確保するため、計画的に事業を実施しています。

集水井工

本事業は国が行っているものですが、その性質上地域の皆様や地元自治体との相互連携や合意の形成等が欠かせません。私の役目の一つはその民国の橋渡し役であり、地域の皆様の御意見、御理解をいただきながら、そこで暮らす人々の安心・安全のために地すべり防止事業を担っていきたいと考えています。そして、この地域にいる間に少しでも多くのものを残していけるよう頑張っていきたいと思います。

【最近のトピックスをまとめてみました】

ニホンジカの低密度管理について

赤谷プロジェクトでは、2008年から赤谷の森全域を対象に、哺乳類相のモニタリング調査を実施しています。その結果、ここ10年間でニホンジカが出現した地点数は約14倍、頻度は最大で約21倍にまで増加しました。また直近では、三国峠のニッコウキスゲ群落が摂食を受けるなど、部分的ではあるものの、植生への影響が出始めています。このままではいずれ高密度になり、対策に大きなコストが掛かるとされることから、プロジェクトでは、低密度の段階で個体数を管理する試みを行っています。2018年から、くくり罠による誘因捕獲試験（誘引には鉱塩を使用）を実施し、初年度は6基13日間の稼働で1頭、次年度は13基41日間の稼働で3頭を捕獲しています。3年目となる今年は、事前にモニタリングした8箇所から、ニホンジカが特に多く出現した5箇所を選定し、1箇所につき3基の計15基を22日間稼働させました。結果、期間中に少なくとも2回はニホンジカが罠を踏み抜きましたが、うまく作動しなかったことや、作動しても罠ごと持って逃げられるなどしたため、捕獲頭数は残念ながら0頭となりました。来年は、今回の経緯を踏まえて、設置の仕方を入念に調整するとともに、稼働期間も増やすなどして確実な捕獲に結び付けたいと考えています。

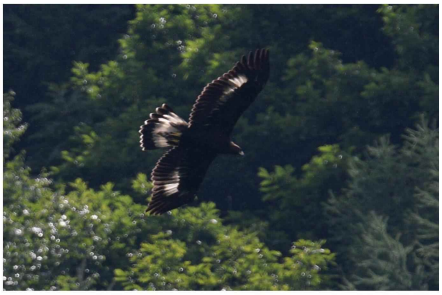
くくり罠の設置

鉱塩に誘引されたシカ

イヌワシの繁殖サポートについて

森林生態系の頂点に君臨し、国の天然記念物に指定されているイヌワシ。国内においては、近年、餌不足や生息環境の悪化などを理由にその数を急速に減らしつつあります。赤谷の森にも、現在イヌワシがひとつがい生息しており、90年代前半からモニタリング調査が行われていますが、2010年からは6年連続で繁殖に失敗するなど、繁殖成功率の低下が懸念されています。そうした背景から、プロジェクトでは、イヌワシの繁殖をサポートすべく、人工林を伐採することによる「狩場づくり」を行っています。2015年からスギの人工林を継続的に皆伐し、2019年までに約3.6ha、今年は9月に約0.7haについて実施しました。伐採初年度から数えて5年目の今年は、営巣地の移動も関係しているものの、試験地周辺へのイヌワシの出現頻度が最も高く、試験地での狩り行動の回数も、伐採面積の増加とともに増えていることが確認されています。加えて、2016年、2017年は繁殖にも成功し、今年も6月下旬に幼鳥の巣立ちが確認されたことで、ここ5年間における繁殖成功率は6割となりました。試験地が、どれほど繁殖に影響しているか定かではないですが、狩場として利用しているのは、確実なようですから、今後も伐採を計画しつつ、イヌワシのよりよい生息環境づくりに取り組んでいきます。

今年伐採したイヌワシの狩場試験地



今年誕生したイヌワシの幼鳥

赤谷の森自然散策（秋）について

赤谷プロジェクトでは、環境教育ＷＧの一環として、春、夏、秋、冬の年4回にわけて「赤谷の森自然散策」を行っています。今年は、コロナウイルスの関係で春、夏は中止となりましたが、秋については募集区域を利根沼田区域に限定し、募集人員も20名と縮小して行いました。開催日は11月24日（土）、錦秋に染まるブナやミズナラの樹々を観察しながら、群馬県側三坂線入口から新潟県側駐車場までの旧三国街道(国有林)を散策するコースです。散策後には、猿ヶ京に古くから伝わる民話語りや紙芝居を鑑賞します。みなかみ町（エコパーク推進室）との共催で行っているもので、募集すれば直ぐに定員に達する人気を誇っております。

赤谷の森自然散策（秋）集合写真

参加者に説明する長浜さん

当日は天候にも恵まれて、いい散策日和となりました。３班に分かれ１班のガイドは長浜陽介さん、２班は石坂忠さん、３班は石飛誠さんが担当し、それぞれ持ち味を発揮して参加者に説明をしていました。今回は地元のみなかみ町、沼田市の人だけでしたが、「春・夏が中止になり心配していたが開催されて良かった。」、「紅葉が美しくてとても良かった。また、違う季節に来てみたい。」などの感想が聞かれ、いい思い出になったと思います。

最後に、赤谷の森自然散策会（冬）が令和3年2月11日（木）に予定されております。コロナウイルスがまた流行ってきており開催の実施については検討を要するとは思いますが、開催の有無が決まりましたらホームページ上でお知らせしますので宜しくお願いします。

日本で現在栽培されているきのこPart4

アラゲキクラゲ（キクラゲ科　キクラゲ属）

３月下旬から９月上旬に河川敷の柳などの広葉樹の枯木に群生する。
カサはゼラチン質で径５㎝～８㎝で表面は茶褐色から茶色で白色の細かい微毛があり、裏側は細かい管孔になっている。
柄はほとんど無い。
分類的には子嚢菌類に分類される。
商品名はキクラゲで販売されている。

ハナビラタケ（ハナビラタケ科　ハナビラタケ属）

７月上旬から９月中旬に針葉樹の伐根や立ち枯れ木、主にカラマツに単生から散生する。
カサは始め鮮黄色後に白色になり扇形で径２㎝～４㎝で縦に重なり塊になり、裏面は管孔です。
柄は５㎝でカサと同色です。
βカロチンを多く含んでいるきのこです。

ヤマブシタケ（サンゴハリタケ科　サンゴハリタケ属）

９月下旬から１０月中旬に広葉樹の立ち枯れ木に単生する。
子実体は白色で次第にクリーム色になり老成すれば、淡黄褐色を帯びる。
カサや柄は形成されず、ゆがんだ球塊状で径８㎝～２５㎝で太く長い針状の集合体です。
針は柔らかくもろい肉質で折れやすい。

小学生が職場見学に来てくれました！

総務課

前橋市立岩神小学校3年生の児童が、総合的な学習の授業の一環として、11月11日（水）に関東森林管理局に見学に来てくれました。

関東森林管理局での仕事や森林・林業について、イラストや動画等を交えて紹介しました。初めのうちは少し緊張していた子どもたちでしたが、実際に木材の見本を見たりするうちに、緊張もほぐれ、積極的に手を挙げて質問をしてくれるなど、楽しく元気に話を聞いてくれました。最後には屋上から赤城山や榛名山、妙義山を一望し、子どもたちは運動会の話題で盛り上がっていました。（群馬県では運動会のとき、赤組・白組ではなく、赤城団・榛名団・妙義団など、山の名前で団分けをすることが多いそうです。）

元気に手を挙げてくれました

どうやって管理しているのかな

木には色々な種類があるよ

あれが榛名山！

後日届いた感想文には、森林が大切だと分かった、これからも森林を守ってくださいなどと書いてくれていました。短い時間ではあったものの、森林のはたらきや、私たちがどのような仕事をしているのかを伝えることができたのではないかと思います。

今回の見学で、子どもたちが少しでも身の回りの木や森林に興味を持ってくれたらと思います。来年もまた見学に来てくれるのを楽しみにしています。

令和2年度 新規採用者 初めての顔合わせ

福島森林管理署 業務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 鈴木大輝、福島森林管理署 白河支署 総務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 宮原直也、磐城森林管理署 業務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 平峯元紀、棚倉森林管理署 業務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 井上晴香、日光森林管理署 総務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 石川いずみ、群馬森林管理署 業務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 松野直輝、吾妻森林管理署 総務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 櫻木隆満、中越森林管理署 業務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 有馬聡、下越森林管理署 治山ｸﾞﾙｰﾌﾟ 竹内綾香、上越森林管理署 治山ｸﾞﾙｰﾌﾟ 糸日谷聡、静岡森林管理署 治山ｸﾞﾙｰﾌﾟ 沼口暁、天竜森林管理署 業務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 上木屋健、埼玉森林管理事務所 業務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 安部絢也、山梨森林管理事務所 業務ｸﾞﾙｰﾌﾟ 鈴江卓也、大井川治山ｾﾝﾀｰ 平田和嗣、総務企画部総務課 人事係 新井彩香、総務企画部経理課 企画係 林一樹、計画保全部保全課 測定係 梅本小優樹、森林整備部森林整備課 企画係 大澤創

発行所　関東森林管理局
編集　総務課
■ＴＥＬ　（０２７）２１０－１１５８
■ＦＡＸ　（０２７）２３０－１３９３